

事務事業評価シート 令和 2 年度事後評価・決算

令和 4 年 2 月 10 日時点

事務事業評価シート					令和 2 年度事後評価・決算		所管課	消防本部			担当班	警防課		
事務事業名		コード	33100 消防車両整備事業	予算科目	会計	款	項	目	事業種別	☒	主な事業			
施策体系	基本施策	27	消防・防災力の強化	根拠法令	一般	9	1	1		☒	国土強靱化地域計画			
	施策の展開	58	消防体制(常備・非常備)の充実	戦略事業	246	消防車両の整備(常備・非常備)(消防車両整備事業・消防団車両整備事業)						☒	新市建設計画	
	施策の展開			戦略事業								☒	定住自立圏構想	
												☒	主要事業	

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間		② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない	
☒ 単年度繰返	☐ 平成 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 令和 年度まで	・本市における消防車両更新基準に基づき緊急出動に支障をきたすことのないよう更新整備を行います。 ・消防ポンプ自動車、水槽付消防ポンプ自動車、化学消防車、救助工作車は「消防車両の安全基準について」に基づき15年。 ・はしご自動車は「消防車両の安全基準について」に基づき17年。ただし、安全性の確保のため更新までの間に2～3回のオーバーホールを実施。 ・高規格救急車は他の緊急車両と比較すると使用頻度が高く老朽化が早いため12年を基準としますが安全性を考慮し走行距離15万kmも更新基準に加える。 ・指揮車、広報車、特殊車等、緊急車両以外の車両は更新基準15年。	
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状		④ 事務事業に関する課題・環境の変化	⑤ 事務事業に対する住民からの意見等
・複雑・多様化する災害に対応するため、当市に必要な車両基準数を満たすよう、また現状の消防力を維持し消防の住民サービスの充実を目的として消防本部設立当初より継続して実施している。		・消防車両等の高機能化により購入価格が上昇傾向にある。 ・更新基準年数に近いまたは、経過している車両については故障、修理件数が増加傾向にある。	「安全で安心して生活のできるまちづくりをお願いします」とのご意見があった。

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(2年度の決算)		単位:千円
1. 需用費		
2. 役務費	16	保険料・手数料
3. 備品購入費	36,630	車両購入費
4. 公課費	33	重量税
② 特定財源の内訳(2年度の決算)		単位:千円
1. 国庫支出金		
2. 都道府県支出金		消防防災施設強化事業費補助金
3. 地方債	12,800	消防施設整備事業債
4. その他		

		単位	29年度(決算)	30年度(決算)	1年度(決算)	2年度(決算)	3年度(予算)
事業費	1. 需用費	千円					
	2. 役務費	千円		46	26	16	
	3. 備品購入費	千円		39,677	58,409	36,630	58,722
	4. 公課費	千円		43	50	33	
	事業費計(A)	千円		39,766	58,485	36,679	58,722
財源	1. 国庫支出金	千円					
	2. 都道府県支出金	千円			4,919		
	3. 地方債	千円		36,700	34,200	12,800	56,300
	4. その他	千円					
	5. 一般財源	千円		3,066	19,366	23,879	2,422

前年度増減理由	車両更新が1台であったため、減となった。
---------	----------------------

従事職員数	常時	3	人	最大		人	×		日	=	延べ		人
-------	----	---	---	----	--	---	---	--	---	---	----	--	---

(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

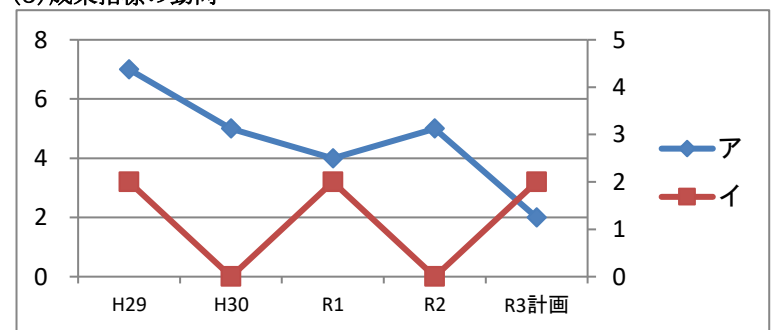
手段	① 主な活動		⇒	③ 活動指標名		単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	1年度 (実績)	2年度 (実績)	3年度 (計画)
	2年度実績(2年度に行った主な活動)										
	高規格救急車の更新 1台			ア 消防車両の更新	台	0	2	2	1	3	
				イ 排ガス浄化装置取り付け	台	0	0	0	0	0	0

目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)		⇒	④ 成果指標名		単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	1年度 (実績)	2年度 (実績)	3年度 (計画)
	対象	消防車両等									
	意図	更新年を迎えた消防車両等を計画的に更新することにより、住民への安全で安心な暮らしの消防住民サービスが提供できる。		ア 車両故障件数		件	7	5	4	5	2
	対象			イ ポンプの故障件数	件	2	0	2	0	2	2

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果			② コスト削減優先度評価結果		
施策貢献度	大きい	成果向上余地	評価結果	①	コスト比率
		かなりある			下位 1/3
普通	③		②		中位 1/3
			③		上位 1/3
			④⑤		
			⑥		
小さい			⑦⑧		
			⑨		

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況		☐完了☒順調☐概ね順調☐停滞☐実施困難												
	【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)														
	② 成果の状況		成果指標ア	成果指標イ	成果指標のタイプ	数値増＝成果向上	☐ 向上	☒ 横ばい	☐ 低下	比較 成果動向	28年度	29年度	30年度	1年度	2年度
			成果指標イ	成果指標のタイプ	数値増＝成果向上	☐ 向上	☒ 横ばい	☐ 低下	29年度		30年度	1年度	2年度	3計画	
	【コメント】 (低下の場合、その理由)														
③ 今年度取組事項 (3年度に取り組む主な事項について記載)		時期	内容			今後の方向性	☐拡大☐縮小☒現状維持☐廃止・休止☐見直し☐その他()								
年度中		水槽付消防車1台、連絡車2台の更新配備			令和2年度以降	分署統合に向けた車両更新の計画を策定する。									